

今月の最新ニュース

「政権交代：続報 新首相決定」

8月22日、タイの新首相が遂に決定いたしました。今回もBCG経済から一度離れ、こちらについてお伝えしたいと思います。

前は、

- ・王室改革まで踏み込んだ革新派である前進党が議席を大幅に増やし、政権交代が確実に。第二党であるタイ貢献党及び他野党と親軍派を排除した連立政権を発足予定という状況をお伝えしました。

しかし最終的には、

- ・前進党代表ピター氏は1回目の首相投票において過半数を獲得できず不選任（親軍派議員の棄権が大きな要因）、さらに親軍派議員によるピター氏の資格剥奪に関する動議が国会で可決
- ・第二党であったタイ貢献党が前進党を外した上で、親軍の2政党を含む11党との連立を首相選出投票の前日に発表、タイ貢献党セター氏が首相選出投票にて過半数を取得し新首相就任

となり、変化を望んだ民意とはかけ離れた結果となってしまいました。現地では大きな混乱は今のところありませんが、SNS上では連日国民による激しい議論が交わされています。

新首相として第30代首相に就任するセター氏は60歳で、米国の大学院を卒業後、タイのプロクター・アンド・ギャンブル（P&G）に入社、2022年にタイ貢献党に入党しました。5月の総選挙前に不動産大手サンシリの会長を辞職していますが、出馬もしていなかったため民間人として首相に就任することになります。タイにおいては大手企業の経営者であったという事実は、同時に既得権益層との大きなつながりも意味しており、SNS上ではそれらを危惧する声も見られました。

また、彼が率いる11党による連立政権の主要な政策は下記となっています。

- ・16歳以上の国民にデジタル通貨で1万バーツ（約4万1,600円）を配布
- ・27年までに1日あたりの最低賃金を600バーツに引き上げる
- ・学士に対して月額最低賃金2万5,000バーツ

その他も大部分はタイ貢献党の選挙時公約に沿った内容となっています。また、「医療用大麻の使用」についても推進する方針となっています。

新首相決定後、政権が安定することを好感し、タイ証券取引所（SET）メインボードの総合株価指数「SET指数」の終値は、本日時点で5日以上続けて上昇しました。今後はセター氏の組閣人事が関心の的となりますが、11党の連立となるため、人事に時間がかかっていると報じられています。